

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 109

2017年1月17日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、工学部の村上 健司先生です。

◆◆ CONTENTS ◆◆

1. 「静岡大学・中日新聞連携講座2016『浜松の過去・現在・未来』」のご案内
2. 「第4回HEPTコンソーシアムフォーラム」のご案内
3. 「医工連携知財セミナー」のご案内
4. 「グリーンサイエンスカフェ in はままつ」のご案内
5. 「ものづくり特別講演会」のご案内

1. 「静岡大学・中日新聞連携講座2016『浜松の過去・現在・未来』」のご案内

今年度の静岡大学・中日新聞連携講座は、大河ドラマのテーマとなる井伊直虎の実像、平成の大合併にともなう浜松のまちづくりの課題と展望、様々なイノベーション（技術革新・社会変革）の展開など、多様な切り口から浜松という地に焦点を当てる全5回です。静岡大学が誇る講師陣が、遠江の時代からものづくりの最先端都市まで、浜松の過去・現在・未来を展望します。

【日 時】 2017年1月17日（火曜日18:00～19:30）

【会 場】 静岡大学浜松キャンパス 附属図書館浜松分館（S-Port）3階大会議室

【定 員】 100人（申込先着順）

【参加費】 無料

【申込方法】 氏名（ふりがな）、住所、年齢、電話番号、講座名、参加される回を明記してFAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください。

【申込先】 FAX : 054-252-0310

メール : LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

葉書 : 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学イノベーション社会連携推進機構 連携講座係

【第5回】1月17日（火）

「太陽光・排熱を電気へ変換 ～エネルギーハーベスト材料の開発～」

（講師）早川 泰弘（電子工学研究所・教授）

■概 要■

クリーンな自然エネルギーへの注目が高まり、無尽蔵な太陽光エネルギーを利用する太陽電池や、発電の際に無駄に捨てられている排熱を有効利用する熱電デバイスの研究が盛んに行われています。

このようなエネルギーハーベスト（太陽光や照明光、機械の発する振動、熱などのエネ

ルギーを採取=ハーベストし、電力を得る技術)の開発は、二酸化炭素排出量削減や持続可能な低炭素社会の実現に不可欠であり、浜松でもその先端技術に関する研究が進められています。
太陽電池材料や熱電デバイス材料の開発について紹介します。

【問合せ】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門
TEL : 054-238-4817 (平日9:30~16:00)
メール : LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

【主催】 静岡大学、中日新聞東海本社
【詳細】 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002552.html>

2. 「第4回HEPTコンソーシアムフォーラム」のご案内

組込みソフトウェア技術コンソーシアム(HEPTコンソーシアム)設立4周年を記念し、第4回HEPTコンソーシアムフォーラムを開催いたします。本フォーラムでは、発展する組込みシステム技術の今後と将来への対応を考えながら、HEPTコンソーシアムの取組みがどのように地域製造業の高度化を担う皆様のお役に立っていただけるかを一緒に考えていただく機会といたしたく存じます。

フォーラム終了後は、基調講演者、講演者を交えた交流会を予定しております。そちらもどうぞよろしく願いいたします。

【日時】 2017年1月25日(水)
【場所】 プレスタワー17階 静岡新聞ホール
(静岡県浜松市中区旭町11-1)

【参加費】 無料
【定員】 120名

【申込終了】 2017年1月18日(水)

【申込先】 <http://bit.ly/hept-4thforum>

□■プログラム■□

15:00 開会
15:00~15:10 主催者挨拶

■ 基調講演
15:10 ~ 16:20

「高信頼性・安心・安全なソフトウェア開発の動向と対応について」
パナソニック アドバンステクノロジー株式会社
開発本部 高信頼性開発センター 所長 兼 先行基盤開発室 室長 磯貝 典仙 氏

■ 講演
16:30 ~ 17:30

「ヤマハ株式会社におけるAIへの取り組み」
ヤマハ株式会社 研究開発統括部 第1研究開発部 知的音楽システムグループ

主事 博士（情報学） 前澤 陽 氏

■ 事業報告

17:30 ~ 18:00 「平成29年度事業説明」

組込みソフトウェア技術コンソーシアム 理事長 増田洋介
静岡大学情報学部 教授 塩見彰睦

18:30 ~ 「情報交流会」

基調講演・講演者を交えた懇親会をバールマブチにて予定しております。
こちらもどうぞご参加ください。

◇懇親会費4,000円

【主催】 浜松市 組込みソフトウェア技術コンソーシアム 浜松科学技術研究振興会
静岡大学

【問合せ先】 静岡大学情報学部内 組込みソフトウェア技術コンソーシアム事務局
TEL:053-478-1577
E-Mail : hept[at]inf.shizuoka.ac.jp

3. 「医工連携知財セミナー」のご案内

医工連携による機器開発においては、技術だけではなく、大学と企業が双方で、周辺情報を把握することが必要となってきております。今回のセミナーでは、知的財産権について大変詳しい講師をお招きし、特に医療用器具、医療機器開発等においてポイントをわかりやすく紹介します。医工連携に携わり、医療機器開発の周辺情報にご興味のある方は是非ご参加ください。

お申込は、E-mailでお申込ください。

【日時】 平成29年1月27日（金）15:00~17:00

【会場】 ホテルクラウンパレス3F 松の間
(〒430-8511 静岡県浜松市中区板屋町110-17)

□■内 容■□

15:00 開会 浜松医科大学 理事・副学長 山本 清二

15:05 『中小企業のための医工連携と知財戦略』
(講師) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 神谷 直慈 氏

16:05 『医療機器産業への参入支援から見えてきた課題』
(講師) 名古屋国際特許業務法人 山越 淳 氏

17:00 質疑応答、閉会

本事業は、下記の事業として実施します。
浜松医科大学「平成28年度AMED国産医療機器創出促進基盤整備等事業」
はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点[JST地域産学官共同研究拠点整備事業]
浜松商工会議所 浜松医工連携研究会事業、

【申込・問合せ先】浜松医科大学 産学官連携推進部

E-mail:chizai [at] hama-med. ac. jp
TEL : 053-435-2681 / FAX:053-435-2179

4. 「グリーンサイエンスカフェ in はままつ」のご案内

平成25年4月に発足した「グリーン科学技術研究所」の教員が、研究者の夢や失敗談、ときには笑いを交えて個々の研究を紹介します。コーヒーを片手に、科学の話題に耳を傾けてみませんか？

【日 時】・第3回 2月18日（土）14：00-15：30

【場 所】 浜松科学館 1F講義室
(〒430-0923 浜松市中区北寺島町256-3)

【定 員】100名（事前申込先着順）
【対 象】中学生、高校生、大学生、一般市民

□■講座内容■□

・第3回 2月18日
(講師) 原 正和 教授
植物にもストレスってあるの？

【申込み方法】以下の3通りです。

- (1) Web申込み
浜松科学館ウェブサイトから申込み
<http://www.hamamatsu-kagakukan.jp/kouza.html>
- (2) 往復はがき
送付先：〒430-0923 浜松市中区北寺島町256-3
浜松科学館「静岡大学グリーンサイエンスカフェ」係
往信に①郵便番号②住所③氏名（ふりがな）④電話番号⑤希望の講座
(複数応募可)を記入してください。
返信に宛先を記入してください。
- (3) 事務室
浜松科学館1F事務室にて申込みください。
※その際に、返信はがき代として52円をいただきます。

【問合せ】

浜松科学館 E-mail : hames[at]hamamatsu-kagakukan.jp
Tel : 053-454-0718

5. 「ものづくり特別講演会」のご案内

しずだい産学連携メールマガジンVol109

IoT (Internet of Things)、ビックデータなどテクノロジーの進展を背景にドイツの「インダストリー4.0」などで産業革新が進行する昨今、中小企業にも大きなビジネスチャンスが到来するとの見方もあり、IoT活用によるメリットを享受する積極的な姿勢が重要だと考えられています。また、インダストリー4.0は、業務プロセスのIoT化であり、製造業だけにとどまらず全産業に影響するとされています。そこで、本地域の中小企業を対象に、今、世界で何が起きているのか、何が起きつつあるのか、インダストリー4.0・IoTへの理解をより一層深め、今後の事業活動における取り組みや活用を検討する際の最新情報を提供します。

【キーワード】
インダストリー4.0・IoT活用・AI (人工知能)・ビックデータ

【対象】中小企業、学術機関、行政、金融機関、産業支援機関

【講演】
《タイトル》「インダストリー4.0 最前線：Industrial IoTの導入とビジネスモデル」
《講演者》ベッコフオートメーション株式会社
代表取締役社長 川野 俊充 氏

《講師略歴》
東京大学理学部物理学科を卒業後、日本ヒューレットパカード株式会社を経て2003年カリフォルニア大学バークレー校 ハース経営大学院経営学修士、日本ナショナルインスツルメンツ株式会社の事業部長、慶應義塾大学SFC 研究所 上席所員を経て2011年に「EtherCAT」開発元のベッコフオートメーション株式会社代表取締役社長に着任し、ソフトウェアPLC/NC/RCのTwinCATによるPC制御ソリューションの普及に努めている。

お申込は、E-mailでお申込ください（定員180名）。

【日時】平成29年2月21日（火）14：00～16：00

【会場】プラサヴェルデ301・302会議室
（静岡県沼津市大手町1-1-4）※沼津駅北口より徒歩4分

【申込・問合せ先】

静岡県東部地域技術振興協議会東部地域イノベーションセンター

E-mail: info [at] innovation-center.jp
（所属機関、ご芳名、役職、TEL、FAX、E-mailを記載の上）

TEL：055-964-1581 / FAX:055-964-1583

《 みんなのコラム -103- 》

記：工学部 電子物質科学科 教授 村上健司

私は、大学院で学位を取得してから今日まで、大学での生活しか経験していません。また、米国ペンシルバニア州立大学から電子工学研究所に赴任した32年前は、研究内容が基礎研究（原子レベルでの物質表面の解析）であったこともあり、企業との共同研究というものに対して、どちらかと言うと、ネガティブな印象を持っていました。

電子工学研究所に着任してからは、表面物性の応用として、湿度センサやガスセンサなどの雰囲気センサの開発を行いました。当時の教授は企業との共同研究に積極的であり、多くの企業人を研究生として迎えていました。最初は戸惑いとともに少し違和感を覚えました。センサというデバイスやシステムを実用化させるためには、企業が有している情報や技能が不可欠であることを実感し、ようやく共同研究の重要性を私の中に位置づけることができました。また、当時の教授が企業との交流を通して、自身の研究分野に関する社会のニーズや動向をいち早く掴んでいたことに、大変驚かされました。

その後、研究内容をセンサ材料でもある金属酸化物半導体の応用に拡げ、圧電アクチュエータ用材料の開発を行いました。この研究では、当時新しい表面解析手法として話題となっていた走査トンネル顕微鏡（STM）の駆動部への応用を目指して、企業のみならず、県の研究機関や学内の複数学科にまたがる共同研究を立ち上げました。この時は、共同研究における大学側（当時文部省）の権利の強さに驚きました。現在は、かなり対等化されていることと思いますが、大学の法人化後も底流としての考え方は変わっていないような気がしています。現在は、材料は金属酸化物半導体を中心としたままですが、圧電アクチュエータが電気エネルギーを物理的伸縮（機械エネルギー）に変換するデバイスであったことから、応用をエネルギー変換材料・デバイスに限定することとし、色素増感太陽電池（光エネルギー→電気エネルギー変換デバイス）の高性能化及び応力を光に変換する応力発光材料（機械エネルギー→光エネルギー変換材料）の新規開発を行っています。

15年ほど前までは、共同研究や奨学寄付金を通して、企業から多くの支援を頂きましたが、景気の動向とともに、これらの支援も限定されてしまい、細々と研究活動を続けております。その代わりという用語弊がありますが、留学生を多く指導することとなり、彼らに支えられているのが現状です。目下の関心事は、留学生の多くが南アジア出身で、特に博士課程の留学生は日本語が不得意であり、学位取得後の日本での就職に四苦八苦していることです。優秀な人材であることは間違いありませんので、彼らに門戸を拡げるような方策を企業側にもお願いできないものかと、勝手な夢を見ています。

<< 編集後記 >>

静岡大学の地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）『静大発“ふじのくに”創生プラン』の事業協働機関であり、平成27年3月から本学と連携協定を締結する藍澤證券(株)が、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の行った『地方創生への取組状況に係るモニタリング調査結果（28年度）～地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」～』全国1,300事例のうち最も優秀な10事例に選定され、1月12日（木）に山本幸三 内閣府特命担当大臣（地方創生）より表彰されました。

今回の取り組みは静岡大学と連携した「クロスボーダー型インターンシップ」というもので、藍澤證券がコーディネートした県内企業と首都圏企業の異なるエリアのインターンシップをひとつの企画として行い、参加した学生に地元企業の素晴らしさを再認識してもらうというものです。

しずだい産学連携メールマガジンVol109

こうした経験を通じ学生が今まで以上に地元企業に興味を持つことにより、本学が目指す地方創生が進むことを期待したいと思います。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、sangakukoho5[at]cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：宮下真紀子
発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1703
URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

Copyright (c) 2008-2016
Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved